

強化化する「スーパー台風」が恐ろしい

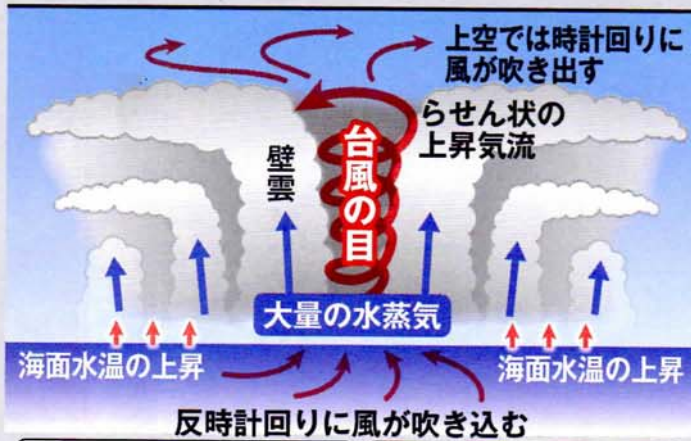
台

風の数自体は増えてはいない。しかし、その勢力は強いものが増えている。「温暖化により、台風が生まれる北太平洋西部の海水温が上昇しているの

で、より大量の水蒸気が台風へ供給されます。水蒸気は台風が発達するエネルギー源で、強い勢力を維持したまま、日本に上陸するケースが増えるでしょう。日本近海の海水温も上がっているの

で、より大量の水蒸気が台風へ供給されます。水蒸気は台風が発達するエネルギー源で、強い勢力を維持したまま、日本に上陸するケースが増えるでしょう。日本近海の海水温も上がっているの

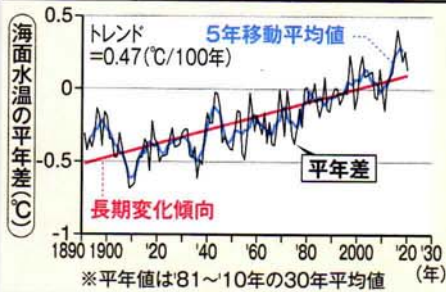
台風の構造



温暖化すると海面からの蒸発量が大きくなって、エネルギーをたくさん取り入れることができるので、台風は強化化する

シミュレーションでは、このまま温暖化が進むと、勢力の強い台風が、今より増えることが予想されている

南太平洋の海面水温年差の推移



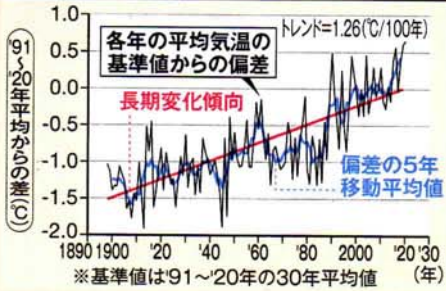
「たとえば、19年10月の台風19号による被害額は、その年に発生した世界の気象災害の中で最も大きかったと言われています。欧米に比べて日本はまだまだ地球環境への意識が低いと言われますが、これだけの被害を受けているわけですし、自分の問題として環境問題に取り組むべきではないでしょうか」(江守氏)

記

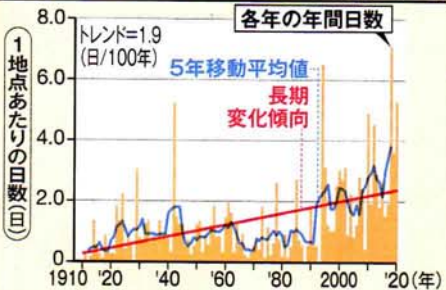
緑的な猛暑が日本列島を襲った18年連続で、3年連続で熱中症による死者数は1000人を超えている。気象業務支援センター研究員の鬼頭昭雄氏が解説する。

「18年の記録的猛暑を解析した結果、温暖化がなければ起こり得なかったという結論に至りました。今後、猛暑日の発生頻度が上がることはデータからも明らかです」(前出・江守氏)

日本の年平均気温の経年変化



猛暑日の年間日数(全国13地点平均)



「さらに都市部では、地表面のアスファルト化や高層ビルの高密度化、自動車などからの人工排熱の増加、緑地の減少で、ヒートアイランド現象が起こっています。過去100年で東京の気温は約3℃も上昇しました。今後も熱中症などの健康被害が増えることが予想されます」(前出・江守氏)

来年も猛暑がやってくる